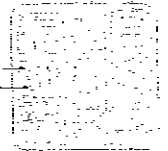


発日ま第 118 号
平成20年10月14日

国土交通省道路局長 様

日向市長 黒 木 健



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

標記の件について、別添のとおり提出します。

文書取扱：まちづくり政策課
TEL(0982)52-2111(内線 2614)

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

宮崎県日向市

1. 地方における広域(高速)交通ネットワーク整備の格差是正及び道路事業を推進する際の評価指標の考え方について

宮崎県的高速道路は未だ 4 割程度しか供用されておらず、豊富な農林水産資源や観光資源に恵まれているにもかかわらず、地域の発展に必要な社会資本の整備が大きく立ち遅れている状況にあります。特に、本市を含む県北地域は、全国でも数少ない高速交通ネットワークの空白地帯となっており、このため、他地域に比べ地域間交流や物流を支える産業の基盤が脆弱になるなど、その格差は非常に大きなものになっています。

また、道路事業を推進する際の評価指標について、昨年来の報道等をみますと費用対便益(費用対効果)に関する部分だけが突出して議論されているように思えてなりません。確かに道路を整備するに当って、費用対便益は非常に重要な要素であり道路整備を検討する際には当然議論されるべき事柄であります。しかし、地方、とくに高速道路等の高規格幹線道路のネットワーク化が完成していない地域においては、費用換算が困難な効果(外部効果)が非常に大きなものであり、地域に与える影響は計り知れないものがある事をご認識いただきたいと思います。

例えば、本市には細島港という重要港湾が在り、「九州の扇の要となる国際的な港湾工業都市」を目指しています。細島港は地理的にも東アジアに最も近い港の 1 つであり、シームレスアジア構想の中でも重要な位置を占める事になると考えますが、東九州自動車道等の高規格幹線道路ネットワークが完成していない現在においては真にその価値を発揮しているとは言えません。

また、昨年 7 月の台風 4 号による集中豪雨では、市を縦断する唯一の幹線道である国道 10 号が、市南部での土砂崩れ、北部での道路冠水により遮断され本市中心部が約 7 時間に亘って孤立し、県北全域の住民にとって欠くべからざる交通機能が完全に麻痺するという憂慮すべき事態が生じました。このことから分かるように、災害発生時の緊急輸送や迂回ルート確保という点でも広域交通ネットワークの完成は緊急の課題となっており、さらに、高度な医療施設までの搬送時間の短縮や山村地域・過疎地域との交流等、数多くの効果を望む事ができます。

このように、地方における高規格幹線道路による広域交通ネットワークの完成は、単に交通・輸送体制の強化に止まらず、産業の振興とそれに伴う安定的雇用の確保、緊急医療に代表される医療福祉体制の強化、さらには、観光振興や山間地域との交流による国土・自然環境の保全等非常に多くの効果を期待することができ、地域の活性化は交通体系の整備抜きには有り得ないものと考えられます。

このような状況を御理解いただき、広域交通ネットワークが完成していない地域における道路事業の事業費配分につきましては特段のご配慮をいただきますようお願いいたします。また、評価指標の取り扱いに付きましては「地域特性要因の加算」等の新たな指数を設ける必要があるものと考えます。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

①広域交通網の整備

本市を含む宮崎県北地域は、全国でも数少ない高速交通ネットワークの空白地帯となっている。このため、他地域に比べ地域間交流や物流を支える産業の基盤が脆弱になっており、九州の扇の要に位置する重要港湾「細島港」の機能の低下にもつながるなど、地域の活性化にも悪影響を与えている。また、災害時の緊急輸送体制、迂回路の確保にも支障をきたすなど、地域住民の安全性にも影響することが懸念されている。

②地域交通網の整備

道路は、くらしや産業を支え、円滑な経済活動や防災活動の根幹となるものであり、幹線道路から生活道路まで一体的に整備していく必要がある。しかし、昨今の厳しい財政状況から今後の道路整備については考え方、手法等の見直しが必要になっている。また、これまでに整備してきた道路の中には、既に老朽化が進んでいるものも多く、今後は社会基盤整備費の中に占める維持管理費の割合が増大することが懸念されている。

様式 ②

宮崎県日向市

○課題

①広域交通網の整備

高速道路等による広域交通ネットワークの完成を推進し、地域の産業、経済の浮揚、住民の生活活動の利便性・安全性の向上につとめる。

・高速道路の整備促進

東九州自動車道(門川～西都間及び蒲江～北川間)の早期完成。

九州横断自動車道延岡線の整備路線への格上げ。

・国道、県道の整備促進

国道 10 号門川日向拡幅事業の早期完成。

国道 327 号バイパスの早期完成、事業区間延長の要望。

国道 327 号及び 446 号の機能充実。

・道路財源の確保

広域交通網の整備に必要なとなる安定的な道路財源の確保。

②地域交通網の整備

市民生活の向上や産業振興、安全安心のまちづくりを進めるため、計画的な地域交通網の整備、保全につとめる。

・計画的な市道整備の推進。

・安全安心のまちづくりのため、既存道路のバリアフリー化の推進。

・アセットマネジメントの導入等による維持管理の効率化及び管理費用の平準化。

平成 19 年 3 月に策定した「新しい日向市総合計画」では、交流・連携を促進する交通環境の整備についての目指すべき将来像を、『高速道路などの幹線道路から、身近な生活道路まで、計画的な整備や維持管理が行われ、交流・連携を促進する道路網が構築されるとともに、各種交通機関の機能や相互連携が充実したことにより、市民や観光客の利便性が向上している』としており、そのために展開すべき施策として、

- (1) 広域交通網の整備 ① 高速道路の整備促進 ② 国道、県道の整備促進 ③ 鉄道輸送機能の強化
(2) 地域交通網の整備 ① 市道の整備促進 ② バス対策の充実

を挙げている。

このことをふまえ、「地域の目指すべき将来像」を具体的に列記すると以下のようなことが考えられる。

① 市民の利便性の向上

・広域交通網が完成し地域交通網も効率的に管理されていることにより、地域間交流も増加し市民の利便性も大きく向上している。

② 災害時の緊急輸送体制、迂回路の確保

・広域交通網の完成により、発災時の緊急輸送や連絡手段が確立し、複数の交通経路が完成したことにより迂回路も確保されている。

③ 緊急医療に代表される医療福祉体制の強化

・高速交通網の完成により高度な医療期間までの搬送時間が短縮されるなど、医療福祉体制の強化につながっている。

④ 産業の振興とそれに伴う安定的雇用の確保

・高速交通網の完成により付加価値を増した臨海工業地帯及び付随する地域の商工業地帯では、活発な経済活動が展開され、それに伴って安定した雇用が確保されている。

・高速道路とのリンクにより十分な価値を発揮できるようになった細島港は真に九州の扇の要となる国際的な港湾工業都市として確立している。

⑤ 観光の振興

・高速交通網の完成により交流圏域が拡大し、豊富な観光資源が有効に活用されることにより入り込み客数も増加している。

全体として広域交通ネットワークの完成、地域交通網の整備は地域の活性化に大きく貢献している。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

宮崎県日向市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	東九州自動車道(門川～西都間及び蒲江～北川間)の早期完成。	高速交通ネットワークの完成により、臨海工業地帯の付加価値が増加し、活発な経済活動が展開される。また、細島港は「九州の扇の要となる国際的な港湾工業都市」として確立されシームレスアジア構想の一翼をになうことができる。	・救急医療体制の強化 ・発災時の緊急輸送や迂回路の確保 ・地域間交流の増加等安全分野や暮らし ・環境分野においても大きく期待されている。
・都市交通の快適性、利便性の向上	国道 10 号門川日向拡幅事業の早期完成。	本事業の完成により本市中心部における慢性的な交通渋滞が解消され、市民の利便性は飛躍的に向上する。	高速道路 IC に直接連絡する区間であることから ・観光ルート of 支障解消 ・細島港の機能低下の解消等も期待されている。
・水害等の災害に強い国土づくり	国道 10 号(日向市大王町付近)の冠水対策延長: 約 1,100m	台風等の集中豪雨時にはたびたび冠水し本来の機能を果たしえなかった国道 10 号も、本事業の実施により、 ・東九州地域における広域幹線道路 ・市民にとっての重要な生活幹線道路 ・災害時には殆ど唯一の緊急輸送路等の機能を回復し、災害時における地域住民の安全性は格段に向上する。	東九州自動車道の開通により緊急時の迂回路は確保されるかに見えるが、自動車道もトンネルや橋梁の多い区間であり、少なくとも 2 路線程度の緊急輸送路の確保は必要である。